

## 森のあそび

(REC講座：里山マイスター入門講座 2014年12月13日)

龍谷大学名誉教授・研究フェロー・里山学研究センター研究スタッフ  
江南 和幸

### (1) ヒノキの焼き板コースター

ヒノキ間伐材の楽しい細工：放置が大きな問題となっている針葉樹の森の間伐材をどうしたら、有効に使えるか？

ヒノキの焼き板コースターは、コーヒーカップ・ウイスキーグラスを載せても美しく映える。



切り倒したヒノキ（スギ）を写真のように、斜めに、平行に約1cm厚さにカットして、表面を、エンドレスで磨き、表・裏面と側面を高温ハンドバーナーで、まんべんなく焼き目を入れる。成長層の柔らかい部分に少し焼き目のひび割れが入る程度まで、平均に焼くとよい。それ以上焼くと消し炭になってしまうので、工夫のしどころ。

バケツに水を用意しておいて、焼きあがったらすぐに水に浸す。

柔らかい真鍮のブラシ（または亀の子たわしでもよい）で、炭になった部分を丁寧に磨いて落とす。乾燥後に磨くと炭の微粉が鼻と口に入るので、注意すること。

表裏が平行になれば、うまく出来た証。

このように横に長くカットした板を使えば、柔らかい成長層と、固い年輪とが、綺麗な模様を作る。単純な輪切りでは、綺麗にならないだけでなく、切ったことによって解放される歪が原因となり必ず割れが入るので、輪切りは使わない。

節の部分は固いので、少し強く焼くとよいが、出来上がってみると、これが、「景色」と

なってかえって美しい。

食卓のコースター、花瓶の下敷など、応用範囲は広い。

## (2) オニグルミの種の殻を使ったストラップ

比叡山、湖南アルプス、比良山、また京都北山の沢沿いには、沢山のオニグルミが生える。

中身が少なく、殻も固いオニグルミは、誰も見向きもせず、リスやネズミの食べ物となっている。10月末から11月末にオニグルミの木の下には、沢山のクルミの実が落ちている。実の部分はすでに腐りかけていることも多いが、かぶれないようにプラスチック手袋をして、実を剥いて中の種子を取り出す。実の部分は、草木染めの材料で、結構高価なものである。乾燥して草木染の愛好家に上げればとても喜ばれる。

さて、殻の方はどうすればよいか。まず胚乳を取り出す。二つの殻が合わさった筋の部分に、カッターナイフの刃を当てて、ハンマーで強くたたけば、二つに綺麗に割れる。もう少し確実に綺麗に割るには、合わせ目にガスの炎を当てれば（割れにくい尻の方から炎を当てるとよい）、そこから自然と剥がれが入るので、そこに刃先を入れてから叩けば、綺麗に割れるので試してほしい。

胚乳を綺麗に取り出すのはまずできないので、爪楊枝などでほじくって取り出す。手のひら一杯ほどで、クルミ和えの材料には十分なので有効に使うこと。

次に殻の表面を、ガスの炎で、焦げ目がつく程度に焼く。あまり強く焼くと次の工作ができないので、工夫をすること。

火を入れることで、殻の形が歪み、合わせ目で合わせてもペアがつかない。そこで、紙やすり、または粗い砥石で両側がびたりと合うように、両方の合わせ目を平らに削る。

次に、この殻を、アロンアルファまたはアラルダイトの瞬間接着剤で接着する。

十分固まったら、殻の表面を80~100番程度の粗い紙やすり、または砥石で、元の殻の模様を残しながら、カットしてゆく。最初に粗砥でカットし過ぎると、殻表皮が破れて、穴が開くので、あまりむきになったカットしないこと。180番程度の中仕上げの後、600~800番の細目で表面の傷を落として、最後に微粒の台所用クレンザーを塗って、布でカットした表面に艶が出るように研磨する。仕上げに布に亜麻仁油などの乾性油を付けて磨くと、思いがけなく綺麗な「森の宝石」ができ上る。

これにチェーンを付ければ、特製ストラップが出来上がる。大きな殻と、上手な手があれば、ペンダントにも使えること請け合い。



オニグルミ殻の工作の順序。右端のように仕上げれば、オリジナルストラップとなる。